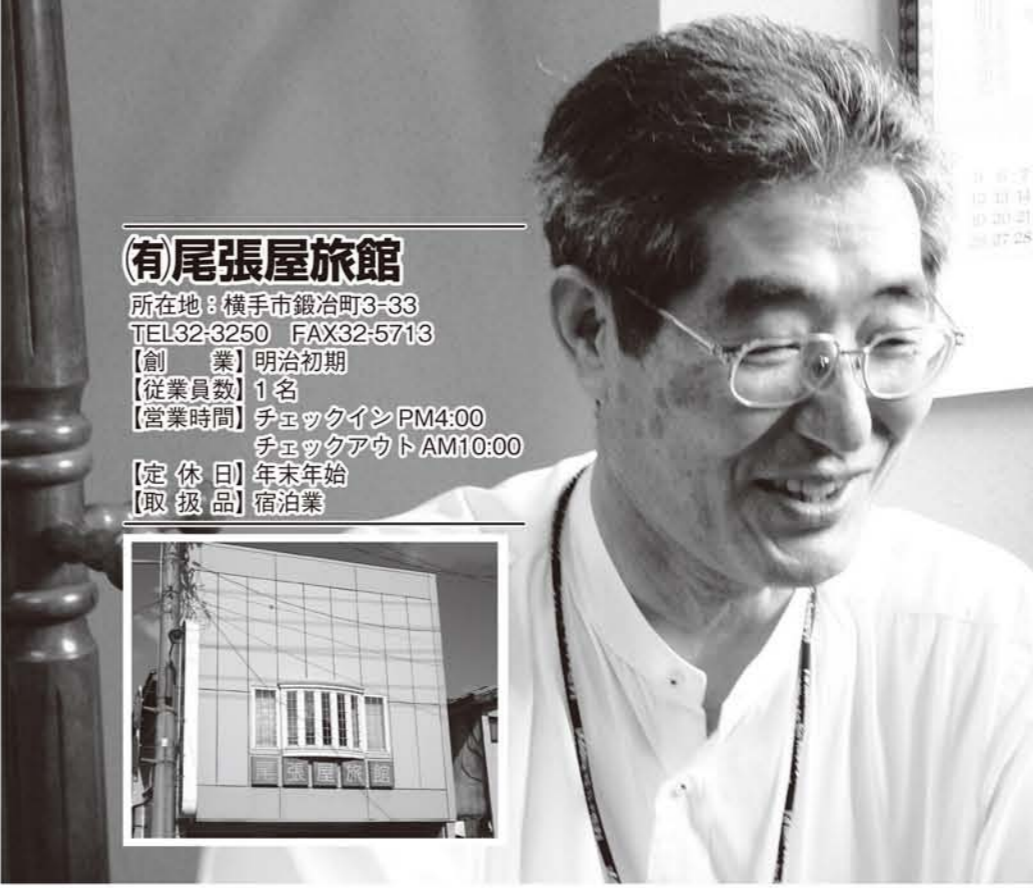


品人 店技

ファイル 68
取材日 H25.7.5

プロフィール おわり ゆきお 尾張 行雄

職：取締役
生 日：昭和26年11月27日
味：長唄
出身地：横手市雄物川町



(有)尾張屋旅館

所在地：横手市鍛冶町3-33
TEL32-3250 FAX32-5713
【創 業】明治初期
【従業員数】1名
【営業時間】チェックイン PM4:00
チェックアウト AM10:00
【定 休 日】年末年始
【取 扱 品】宿泊業



(有)尾張屋旅館、きものの尾張の経営の他、4月からは横手旅館組合の組合長に就任され、毎日忙しい日々をお過ごし尾張行雄さん。接客業で培ったホスピタリティ精神を学びにお邪魔させていただきました。

創業について教えて下さい。
はい。はつきりとはわからないんですけど、明治初期ぐらいだと思います。

歴史ある老舗の旅館ですね。
この旅館がある鍛冶町は昔、羽州街道や岩手と秋田を結ぶ平和街道沿いに位置していたため旅人や商人が行き来し、旅館業が栄えたようですね。

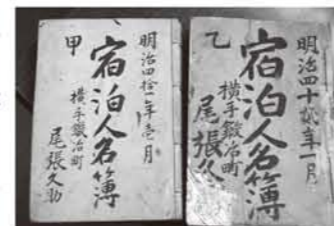
そうだったんですか。
昔から尾張屋旅館さんの場所、変わらないんですか。

そうですね。場所は変わらないですが、昔は旅館の後ろに蔵があったんですよ。建て直しのときに壊してしまっただけですが、蔵を整理していたら明治時代の宿帳なんかも見つかったね。

宿帳？

今もあるんですが、宿泊する人の名前や住所を記入する帳面です。これを見ているとおもしろいですよ(笑) 宿泊した人の人相などいろいろ書かれているんですよ。見てみますか？

えっ！是非、見てみたいです！(実際、見せていただきます)



▲明治時代の宿帳

どこから来てどんな理由で泊まって、どこへ行くのか書かれているので時代背景がわかっておもしろいですね。宿帳を見てみるといろいろなお客さんが宿泊

されるようですが、尾張さんの心に残ったお客様はいらっしゃいましたか？

何年か前のかまぐらのおときに素泊まりのお客様がきたことがあるんですけど、その人が『日本ボロ宿紀行』っていうブログを書いていて、うちの旅館のことを載せてくれたみたいなんだよね。そのブログを見たので宿泊したというお客様もいましたね。PRしてくれるのはうれしけど…でも、ボロ宿ってひどいよね(笑)

(そのブログを調べてみると、管理人が気に入った、魅力ある宿に愛情をこめて「ボロ宿」と記載するあたり)

確かに、尾張さんと話をしているとどこかほっとして、自分の家にいるような安心感を感じます。やっぱり魅力的な宿ですよ。

なるほど(笑) どうして呉服店だったんですか？

学校を出てすぐに尾張屋呉服店に勤めたんですよ。それで、その呉服店が閉店するまで勤めていたんですが、閉店と共に独立しました。40年以上この仕事をしてきたし…何よりも好きですからね。

でもずっと呉服店と旅館業を両立していくのは大変ではないですか？

ありがたい事に、いつもまわりの人達が助けてくれるんです。お客様で何とか両方続けられています。人が好きだから両方とも楽しんでやっていますよ。

長年培った経験を生かし、お客様に喜んでいただける旅館・お店を営んでいる尾張さん。とても気さくにお話をいただきました。私たちもそのホスピタリティを見習いたいと思いました。



▲きものの尾張



そうですね。『宿六』って言葉を知っていますか？

『宿六』ですか？

旅館業って女の人が食事を作ったり、掃除したりするので昔から男はいても特にすることがないから、『宿屋のろくでなし』と言われてたんですよ(笑)だから、呉服の仕事が続けたんです。他にできることもないので…。

お客さんにはいつも声を掛けるんだよ。やっぱり同じ釜の飯を食べるとなんだか、家族の一員みたいに感じるんですよ。

なるほど(笑) なんだか親しみやすい旅館の雰囲気だけに癒されそうですね。

だから、東日本大震災があった時、津波の被害が大きかった場所に住んでいる常連さんや知り合いたちのことは本当に心配しました。

地震直後から2、3日、停電しましたよね。そのとき宿泊されていたお客さんはどうされたんですか。

寒い時期だったので電源のいらない石油ストーブを小屋から出してきて、暖をとってもらいましたね。

あれから2年が経つけれども、今もまだ元の生活に戻れない人達がいいますよね。

そうですね。

震災直後は、旅館組合として被災者の受入も行いました。自宅がなくなったり、あっても自分が住んでいた場所に戻れなかったりと…気持ちを考えて心が痛いんです。今、横手